

ポーランド国内治安関連統計

1 2017年第4四半期(10月~12月)治安統計

国家警察本部が発表した統計によると、2017年第4四半期(10月~12月)の犯罪認知件数は18万2,177件で、対前年同期比3.9%減、対前期比14.3%増となった。今期は、各犯罪類型とも認知件数が軒並み上昇しているが、中でも偽造等の経済犯罪や薬物犯罪の認知件数が大幅に上昇している点が特徴的で、与党「法と正義」(PiS)がこれらの犯罪に関与する組織犯罪グループへの取締り強化の方針を示していることが影響しているものと見られる。

他の分野に関しては、第4四半期がクリスマス等年末の長期休暇期間をはさみ、他の時期と比較して犯罪が増加する傾向があることを鑑みると、増加幅はおおむね想定範囲内と言える。今期も対前年同期比でほぼ全ての犯罪項目で認知件数が減少していることから分かります。中長期的な治安の改善傾向は持続しており、全般として当地の治安情勢は安定していると評価できる。

(2) 2017年第4四半期の犯罪類型別件数

殺人:	133件	(対前年同期比 8.9%減)	対前期比 18.8%増)
傷害:	3,209件	(同 3.5%減)	同 12.6%増)
暴行:	1,262件	(同 10.8%減)	同 21.3%増)
強姦:	367件	(同 8.5%減)	同 58.9%増)
強盗:	1,711件	(同 22.6%減)	同 13.4%増)
窃盗:	28,552件	(同 12.7%減)	同 4.0%増)
車両窃盗:	2,213件	(同 18.0%減)	同 26.2%増)
侵入:	14,321件	(同 10.2%減)	同 19.8%増)
薬物犯罪:	11,189件	(同 3.4%増)	同 15.7%増)
偽造:	4,112件	(同 9.7%減)	同 31.3%増)

2 邦人被害事案

- (1) 10月、クラクフの織物会館で、邦人旅行者が旅券、財布を盗難された。
- (2) 10月、クラクフで、邦人旅行者が旅券、現金を盗難された。
- (3) 12月、ヴロツワフで、邦人宅が空き巣被害を受けた(人的被害なし)

3 邦人以外の被害事案(参考になり得る事案)

- (1) 10月14日午後4時頃、ワルシャワ市プラガ地区北部のシエドレツカ通りで銃撃事件が発生し、ポーランド人タクシー運転手とアルメニア人1人が銃撃を受け負傷した。アルメニア人は、頭部を撃たれ重傷とされる。目撃者によれば、アルメニア人は何者かから逃走している様子で、タクシーに乗った直後に犯人から銃撃されたとされる。犯人は現場から逃走しており、警察が捜索を進めている(当

地主要紙)。

- (2) 10月18日、ポズナンの路面電車で有色人種の家族がポーランド人とみられる2人組から差別的な暴言を浴びせられる事案が発生した。容疑者は「出て行け、ポーランドはポーランド人だけのものだ」などと叫んでいたとされ、車掌によって路面電車から強制下車させられた。警察は監視カメラの画像を解析し、容疑者のポーランド人男性1人、女性1人を特定した(当地主要紙)。
- (3) 10月20日午後、ポドカルパツキエ県スタロヴァ・ボラの大型ショッピングモールVivoで、27歳のポーランド人男性が銃剣を用いて買い物客らを次々に襲撃する事案が発生した。犯人は襲撃開始から1分程度で取り押さえられたが、同襲撃で1人が死亡、2人が重傷、7人が負傷した。被害者は全員ポーランド人であった。地元警察は、容疑者は精神病患者で、テロ組織等との関連は確認されていない旨発表している。容疑者は襲撃の動機について黙秘しており、警察が取調べを継続している(当地主要紙)。
- (4) 10月24日、国境警備隊はワルシャワ近郊のヴォラ・コソフスカに所在する違法縫製工場を摘発し、同工場で就労していたベトナム人16人を拘束した。身分証検査等の結果、このうち10人については、人身売買被害者で、欧州に送られた後、強制労働に従事させられていたことが判明した。国境警備隊は同時に拘束した6人が人身売買に関与しているとしている(国境警備隊ウェブサイト)。
- (5) 11月1日、カトヴィツエ市警察は、市内の森林で男性の刺殺体を発見した。警察が捜査を進めたところ、同男性は自身の所有する高級車をインターネットオークションに出品しており、18歳の男が同車両の購入名目で男性と面会后、男性は消息不明となり、車両の所在も分からなくなっていることが判明した。遺体発見の数日後、警察はカトヴィツエのショッピングモール駐車場で同男性の車を運転する容疑者を発見し、殺人及び死体遺棄の疑いで逮捕した。容疑者は容疑を認めている(当地主要紙)。
- (6) 11月14日夕方、グディニヤのロイター通信社オフィスに、ライフル銃とけん銃で武装した30歳のベラルーシ人の男が押し入り、オフィス内で発砲した。銃撃による負傷者はなく、犯人は同通信社の職員らによって取り押さえられ、警察に身柄を引き渡された。犯人は同通信社の職員とされ、警察が動機等を調べている(当地主要紙)。
- (7) 11月19日深夜から20日にかけて、国境警備隊及びポーランド公安庁(ABW)は、ワルシャワ近郊のヴォルカ・コソフスカに所在するショッピングセンター内で違法に営業していた賭博場を摘発した。同摘発はアジア系犯罪組織に対する取締りの一環として実施されたもので、摘発時に同賭博場を利用していた者の大半がアジア系外国人であった。ヴォルカ・コソフスカでは、2017年6月にもアジア系犯罪組織の違法賭博場が摘発されている(当地主要紙)。
- (8) 11月27日、ワルシャワに所在するワルシャワ・イスラム文化センター(モスク)が襲撃を受け、投石によるガラス数十枚の破損、エアコン室外機の破損等の被害を受けた。監視カメラには2人組の襲撃者が投石等を行う様子が記録されて

いた。同センターに対する襲撃は11月に入ってから2例目で、当地の複数の主要イスラム団体が、国内で反イスラム感情が高まっているとして政府にイスラム教徒保護等の対応を採るよう要請したほか、シドゥウオ首相、グリンスキ副首相が事件に対する非難声明を発出した（当地主要紙）。

- (9) 12月2日深夜、ヴロツワフ近郊の村落ヴィシュニア・マワで強盗グループが警察官に自動小銃を発砲し、警察官1人が殉職、3人が負傷した。同グループはポーランド南部でATM強盗を繰り返しており、今次事案は、警察の対テロ部隊が犯行現場を取り押さえ、グループ構成員を摘発しようとした際に発生し、自動小銃を発砲した強盗はその場で射殺された。シュムテック国家警察長官は、本件に関し、取締りは適切に行われたとコメントした（国家警察ウェブサイト）。
- (10) 12月7日、ガゼタ・ヴィボルチャ紙は、ワルシャワ中央駅周辺で法外な値段を請求するタクシーによる被害が発生している旨報じた。外国人等が同タクシーの被害に遭っており、10キロの移動で通常の7倍近い560ズロチを請求された事例もあるとされる。ワルシャワでは、市内のタクシー業者は、ワルシャワ市によって登録管理されているが、市当局は同問題に関し、タクシー料金の支払いは商業契約とみなされており、利用者の目に付く場所に価格表が提示される限り、価格設定は事業者の判断に委ねられているとしているほか、ワルシャワ首都警察も原則として民事不介入の立場を取っている。なお、これらのタクシーは、車体への社名や電話番号の表示を避ける傾向があるとされる。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

- (1) 日本人の被害
確認されていない。
- (2) 日本人以外の被害
 - (ア) 11月2日、ポーランド・ドイツ国境と隣接するルブスキエ県スウヴィツアの路上で、25歳のポーランド人女性が2人組の男にドイツナンバーの車に押し込まれ拉致される事案が発生した。現地警察が国境警備隊やドイツ側関係当局と連携して迅速な初動捜査を実施した結果、女性はドイツのカッセル市で無事に保護され、29歳の男ら4人が拉致に関与した疑いで拘束された（当地主要紙）。
 - (イ) 12月11日、国家警察は、2017年1月にクラクフで通学中の子どもを拉致し、身代金を要求したとして、2人組の誘拐犯グループを逮捕した旨発表した。容疑者はポーランド人男女で、捜査の結果、逮捕された男は2013年に同じくクラクフで発生したビジネスマン誘拐・身代金要求事件にも関与していたことが判明した。容疑者には禁錮4年が求刑される見込み（国家警察ウェブサイト）。

5 日本企業の安全に関する諸問題

今回、ヴロツワフで邦人宅への空き巣被害が確認された。当地では、短期間に近隣数軒が一度に空き巣被害に遭うことも珍しくなく、過去には、日本企業の事務所への侵入事件も発生している。空き巣被害を防ぐためには、以下の4点に留意する

ことが肝要である。

- ・ 犯罪者は下見をすることが多いので、日ごろから自宅周辺の不審人物等に注意する。
- ・ 行動パターンを第三者に不用意に把握されないよう努める。
- ・ 鍵、警報装置の定期点検を欠かさない。
- ・ 自宅に家族がいる場合であっても必ず施錠する。